

令和4年小山町高校生議会会議録

令和4年11月12日

召集の場所 小山町役場議場

開 会 午後1時00分 宣告

出席議員 1番 杉山 楓君 2番 守屋 芙望君
3番 込山 千尋君 4番 栗山 大遥君
5番 津野茉莉依君 6番 富宅 水緒君
7番 内尾 陽向君 8番 田代 蒼彩君
9番 松元 愛菜君

欠席議員 なし

説明のために出席した者

町 長	池谷 晴一君	副 町 長	大森 康弘君
教 育 長	高橋 正彦君	理 事	増井 重広君
企画総務部長	小野 一彦君	住民福祉部長	長田 忠典君
経済産業スポーツ部長	高村 良文君	教 育 次 長	平野 正紀君
総 務 課 長	渡邊 徹君	総務課総務法規・監査班長	砂山 健秀君

職務のために出席した者

議会事務局長	後藤 喜昭君	議会事務局書記	山口 紘史君
--------	--------	---------	--------

閉 会 午後2時12分

(議 事 日 程)

開会の宣告

日程第1 議席の指定

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

1番 杉山 楓君

2番 守屋 芙望君

小山町の新たな交通機関ロープウェイの設置について

3番 込山 千尋君

4番 栗山 大遥君

5番 津野茉莉依君

小山町の安全安心な通学について

6番 富宅 水緒君

7番 内尾 陽向君

8番 田代 蒼彩君

小山町の人口を増やす方策について

閉会の宣告

議

事

午後 1 時00分 開会

○議長（松元愛菜君） 本日はよろしく申し上げます。

ここで報告します。新型コロナウイルス感染防止のため、議場内ではマスクを着用することとします。

また、小山町議会傍聴規則第 8 条の規定により、本日は傍聴席でのビデオ、カメラの撮影及び報道関係者等による議場での記録用写真の撮影を議長において許可しておりますので、併せて報告します。

ただいま出席議員数は 9 人です。

出席議員が定足数に達しておりますので、小山町高校生議会は成立しました。

ただいまから令和 4 年小山町高校生議会を開会します。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめ配付したとおりですから、朗読を省略します。

日程第 1 議席の指定

○議長（松元愛菜君） 日程第 1 議席の指定を行います。

議席は、小山町議会会議規則第 4 条第 1 項の規定を準用し、議長が指定します。

議席は、ただいま着席の議席とします。

日程第 2 会期の決定

○議長（松元愛菜君） 日程第 2 会期の決定を議題とします。

お諮りします。本議会の会期は、本日 1 日としたいと思えます。これに異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（松元愛菜君） 異議なしと認めます。したがって、会期は、11月12日の 1 日と決定しました。

日程第 3 一般質問

○議長（松元愛菜君） 日程第 3 これより一般質問を行います。

なお、今回の質問は、グループで質問を考えたもので、再質問は全て最初の答弁に対して行います。

質問者は登壇し、質問願います。

通告順により、順次発言を許します。

初めに、1 番 杉山 楓君。

○1 番（杉山 楓君） 2 人を代表して、小山町の新たな交通機関ロープウェイの設置について質

問します。

まず私達は、現在、小山町の主要な公共交通機関であるJR御殿場線の駿河小山駅と足柄駅の利用状況について調べました。2019年静岡県統計年鑑が公表している1日当たりの利用者は、駿河小山駅が387人、足柄駅が450人で、駿河小山駅が60人ほど少ないことが分かりました。そこで、利用者数を増やすために、駿河小山駅の特徴について調べたところ、施設内は飲物の自販機が複数台とアイスやパンの自販機があり充実している一方、改札までの動線は階段しかなく、エレベーターやエスカレーターがないため、バリアフリー化が進んでいないと感じました。また、駅を例に出しましたが、小山町全体で考えても坂が多いため、バリアフリー化が求められると思います。

そこで、小山町内にロープウェイを設置してみてもどうでしょうか。

これを行うことのメリットは、起伏の多い小山町では移動が便利になるという点、また、ロープウェイを設置することで小山町を一望でき、それ自体が観光スポットの一部にもなると考えます。

以上の理由から、次の3点について質問します。

1点目は、先ほど申し上げたとおり、ロープウェイを観光資源の一つにすることです。ロープウェイを利用して小山町巡りをできるようにすることで、観光客に町の魅力を伝えることができると思います。

2点目は、観光客だけではなく、地元の人にも魅力を知ってもらうことです。地元の方が利用することで、今まで知らなかったことを知ることができ、町の魅力を再発見していただけると考えます。

3点目は、起伏の多い小山町で施設間の移動を便利にすることです。例えば、足柄駅から誓いの丘公園、遊女の滝から駿河小山駅間に設置すると、町内の魅力ある観光地への移動が便利になり、訪れる観光客も増えると思います。

また、これらのことをする上で、町民には割引をする、町内の高校・中学校に在学中の生徒には定期券のようなものを発行するなどの工夫をすると、より利用者も増えて相乗効果も期待できると考えます。

以上の点について、町の考えをお聞かせください。

○議長（松元愛菜君） 答弁を求めます。

○経済産業スポーツ部長（高村良文君） 杉山 楓議員、守屋英望議員にお答えいたします。

このたび、ロープウェイの設置ということで、若い皆様から斬新な発想で魅力的な御提案をいただきありがとうございます。

初めに、ロープウェイを利用した小山町巡りによる観光客への魅力発信についてであります。

町では、第5次小山町総合計画に基づき、地域資源を活用した観光交流の振興を図るため、小山町ならではの観光サービスを提供し、観光交流の増大と消費の拡大に努めております。

また、第2次小山町観光振興計画では、富士山観光プログラム、元気にぎわいプログラム、観光インフラ整備プログラムを基本方針として掲げ、各種施策を展開しており、この中で交通・情報インフラの充実が課題の一つとなっております。

議員御指摘のとおり、ロープウェイは、観光資源として、また、山などへの交通手段として、各地で設置されていると考えております。起伏に富んだ本町の地形では、点在する観光スポットを巡る交通手段として、ロープウェイの設置は注目される観光スポットになり得ると考えますが、現在、町では、主にハイカーの利便性を図るため、ハイキングバスの季節運行を行っております。また、コミュニティバスとして、定時運行バスに加え、デマンドバスの導入により利便性を高め、日常生活における移動や富士箱根トレイルなど、町内の観光施設への交通手段として観光客にも利用されておりますことから、これらバスによる公共交通を充実させることを推進しております。

また、昨年開催された東京オリンピック・パラリンピック自転車競技を契機に、本町では自転車の活用を進めており、駿河小山駅前にあるフジサイクルゲートでは電動自転車のレンタルを行い、オリンピック・パラリンピックの記念モニュメントを巡るサイクリングコースを紹介して観光誘客を図っているところであります。

次に、ロープウェイの利用にあたり、観光客だけではなく、地元の方が利用することで、町の魅力を再発見できるのではについてであります。

本町には、世界文化遺産の富士山をはじめ、金太郎ゆかりのスポット、富士箱根トレイル、富士スピードウェイ、10か所のゴルフ場など、豊富な観光資源がございます。観光客の受皿となるこれらの観光資源の再発見や既存施設の充実は非常に重要な要素であり、ロープウェイによる移動は視点が変わり新たな発見ができるかもしれませんが、仮にロープウェイを設置する場合には、観光客をはじめ、地元の方の利用についても十分な調査と研究が必要だと考えております。

次に、駅から観光地へのロープウェイ設置と町民割引や町内の高校生、中学生定期券発行についてでございます。

駅から観光地を結ぶロープウェイの設置は、先ほど申し上げましたとおり、町のランドマークとなり、観光客の誘致に有効な施設になると考えております。

しかしながら、その設置に伴う費用は莫大なものとなることが想定されます。一般的には、必要な用地は支柱のみ分で、トンネルや高架線などの設備も要らず、地下鉄に比べると設置費が安く済むとはいえ、1キロメートル当たりの費用は約10億円からと言われております。

御提案の足柄駅から誓いの丘公園、誓いの丘公園から遊女の滝、遊女の滝から駿河小山駅までの区間へ設置するとなると、約4.7キロメートルで47億円以上もの費用が最低でも必要であると考えられます。

さらに、日々の運営費や毎年の維持管理費など、その費用対効果を考えますと、町への財政的な負担や町民の理解など、十分な議論をしていかなければならないと考えます。

町内の観光地にはロープウェイがあると便利だと思われるところもありますので、その経済性

や費用対効果を見通して、民間事業者によります設置、運営の提案があれば、町は支援していきたいと考えております。その際には、町民にとっても利用しやすい内容を盛り込んだ提案を町もしてまいります。

まずは、既にある恵まれた観光資源を充実させ、ウィズコロナ、アフターコロナといった目の前の課題である観光事業の復活を目指し、町外からの誘客を行ってまいります。

また、地域交通では、町民の利便性を更に充実すべく検討を行っていくことが優先されますが、観光で訪れる方々にも利用していただき、よそにはない交通手段も観光の一つとして発信してまいります。

今回の御提案は、様々な利用者の視点から大いに参考となりましたので、これからも新たな発見がございましたら、御意見をいただき一緒に研究してまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（松元愛菜君） 再質問はありませんか。

○2番（守屋英望君） 再質問をします。

答弁の中で、フジサイクルゲートでは電動自転車のレンタルを行っているようですが、利用者をより増やすために自転車の乗り捨て場を設けるのはどうでしょうか。

現在、レンタルした自転車はフジサイクルゲートへ戻すということになってはいますが、利用後にフジサイクルゲートへ戻すのは大変だと考えます。そのために乗り捨て場を設けるという案を提案します。乗り捨て場を設置することで、わざわざ戻らなくていいので、行動範囲が広がると思います。

また、料金が高いために気軽に利用することができないと考えます。そのため、学生や観光客でも利用しやすい料金へ変更するというのはどうでしょうか。

また、現在運行しているデマンドバスの時間だと不便を感じる方が多くいると考えます。そのため、小山町が現在運行しているデマンドバスの運行を30分延ばすのはどうでしょうか。町の考えを伺います。

○議長（松元愛菜君） 答弁を求めます。

○経済産業スポーツ部長（高村良文君） 杉山議員、守屋議員の再質問のうち、私からは電動自転車のレンタルについてお答えいたします。

初めに、利用者を増やすために、レンタル自転車の乗り捨て場を設けるのはどうかについてであります。

現在、町では、フジサイクルゲートを拠点に、サイクリングコースを設定し、電動自転車を利用して周辺施設を周遊し再度お戻りいただくような楽しみ方をメインに進めております。このたび、町の行事に合わせてレンタル自転車の無料貸出しを行い、利用促進を図ったところでございます。フジサイクルゲートにはシャワー室も完備しておりますので、場合によっては汗を流してから電車に乗ることもできます。

議員御指摘のように、どこでも返却可能な、いわゆるシェアサイクルは、利用者の利便性向上につながるかもしれませんが、そのためには返却場の確保や管理、回収などの運営体制の整備が必要となります。シェアサイクルの導入に当たっては、利用者のニーズなど情報収集に努めてまいります。

また、料金に関しましては、町内の周遊を基本として近隣の事例を調査した上で設定しました。今後、短時間利用等のニーズが多く出てくるなど利用の変化が生じているとなれば、料金設定の細分化など必要に応じて検討してまいりたいと考えております。

本日いただいた貴重な提案を参考に、自転車活用の推進に努めてまいります。

以上であります。

○議長（松元愛菜君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（小野一彦君） 守屋議員の再質問にお答えいたします。

私からは、デマンドバスの運行時間の延長についてお答えいたします。

議員御指摘のとおり、デマンドバスに関しましては、小山町においては令和2年度にその運行を開始し、令和3年度、令和4年度、順次その停留所の拡大、そして運行時間の拡大等を行い、利用者の利便性の向上を図ってまいりました。本年度、令和4年の4月1日からは、夕方の運行時間を平日18時から19時へと1時間拡大し、さらに御殿場市内の高等学校付近に新たに停留所を設けるなど、利便性の向上を図っております。

議員御指摘の夕方の時間を30分延長するというので、この場合19時から19時30分の延長となりますが、まずは利用者の実態調査、そして地区の要望であるとか、または実際の運行にかかる経費、この辺のことを慎重に比べながら判断していきたいというふうに考えております。今この場ですぐに30分延長します、こういったことはお答えすることはできませんが、貴重な御意見ということで受け止めたいと思います。

説明は以上であります。

○議長（松元愛菜君） 再質問はありませんか。

○1番（杉山 楓君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（松元愛菜君） 次に、3番 込山千尋君。

○3番（込山千尋君） 3人を代表して、小山町の安心安全な通学について質問します。

現在、小山町に設置されている街灯は、小中高生が徒歩や自転車で安全に通学、通塾できるほど設置されていないため、通学路により多くの街灯を設置してほしいと考えます。しかし、町内全域で街灯の新規設置や既存の白熱灯をLEDの街灯へ取替工事を行うとなると、相当な時間がかかることが想定されます。そこで、時間とコストを削減しながらも安全性を高めるために反射材の活用を促進していくべきだと考えました。

交通事故は夜間の発生率が高いため、歩行者が車の運転手に視認されやすくすることが、安全

性を高め交通事故の防止につながります。小山町が反射材の使用を町民に呼びかけることで、反射材の認知や使用率を高めることができますと思います。また、より多くの人に興味を持ってもらい使用してもらうためには、町内の小中高生が身につけたいような反射材をデザインすることが重要だと考えます。

そこで、校内反射材コンクールを開催し、優勝作品を町内の各学校や家庭に配付してはどうでしょうか。学生がデザインを考案することで交通安全に対する理解が深まり、反射材を身につける方が増えれば交通事故防止にもつながると考えます。

以上の点について、町の考えをお聞かせください。

○議長（松元愛菜君） 答弁を求めます。

○住民福祉部長（長田忠典君） 込山千尋議員、栗山大遥議員、津野茉莉依議員にお答えいたします。

まず、町内に設置されている街灯についてであります。夜間の道路を安全に通行するために設置されている道路照明灯や、犯罪を未然に防ぐために設置されている防犯灯などがあります。

町では、地区からの要望に対応するなど、必要な箇所へ防犯灯などの設置を進めておりますが、設置場所の確保や経費面などの理由から、整備が行き届いてない箇所もあるのが実情であります。

昨年、令和3年中の静岡県内の人身交通事故発生件数は4,449件で、時間別の発生状況を見ますと、一番多い時間帯は、朝、午前6時から午前8時までが822件、割合で18.5%となっています。2番目に多いのが、夕方、午後4時から午後6時までの716件、16.1%となっています。3番目は、午前8時から午前10時まで、630件、14.2%、4番目は、夜、午後6時から午後8時まで、601件、13.5%となっております。このように、朝と夕方の通勤・通学時間帯がそれぞれ3割で、合わせますと6割強で朝と夕で事故が発生していることになっております。

議員御提案のとおり、反射材の活用は、低コストで夜間の交通事故を大幅に減少させることができると考えております。

町でも、町民の安心安全のために積極的に普及させたいと考えており、様々な交通安全イベントなどを通じて反射材を配布し、着用について呼びかけを行っているところであります。

電池などを使用して自ら光ることで、より目立ち、安全性の高い自発光式反射材の普及にも取り組んでおり、小山高校の正門前で朝の通学時に実施している自転車マナーアップキャンペーンでも自発光式反射材を配布しております。

しかしながら、配布した反射材を実際に使用していただいているかどうかは分からず、さらに、特に若い人への普及が進んでないと感じております。その原因の一つとして、議員御指摘のとおり、身につけたいようなデザインのものが少ないことが考えられます。

御提案の校内反射材コンクールですが、反射材の認知度向上にもつながりますし、高校生の感性による身につけたいようなデザインの反射材は、町としても普及啓発促進に大きな効果があると考えております。実際に商品化するためにはコスト面などの課題はありますが、まず小山

高校でコンクールを行っていただき、実現していきたいと考えております。

交通事故防止に向けて、素晴らしい御提案でありますので、一緒に取り組んでいきたいと考えております。

以上であります。

○議長（松元愛菜君） 再質問はありませんか。

○4番（栗山大遙君） 再質問をします。

答弁の中で、実際に商品化するためにはコスト面などの課題があるとありますが、現在配布している反射材を自分達の作った反射材に置き換えることで生産コスト面が補えるのではないかと考えましたが、町の考えを伺います。

○議長（松元愛菜君） 答弁を求めます。

○住民福祉部長（長田忠典君） 栗山大遙議員の再質問にお答えさせていただきます。

生産コストの課題についてであります。現在、交通安全イベントなどを通じて配布している反射材は、既に製品化されている商品でありますので単価が安く、購入しております。

新たにデザインしたオリジナルの反射材を作るとなると、発注する数にもよりますが、単価が約3倍の価格となり、初期費用が多くかかるということで、コスト面において課題があると申し上げたところであります。

ただし、デザインや話題性により多くの方が使用していくことで、それ以上の効果が期待できると思い、商品化に向けて検討を進めていきたいと考えております。

以上であります。

○議長（松元愛菜君） 再質問はありませんか。

○5番（津野茉莉依君） 再質問します。

答弁の中で、まず小山高校でコンクールを行うとありますが、小山高校でコンクールを行った後、どのようにして小中学生や小山町民に広めていくとお考えでしょうか。町の考えを伺います。

○議長（松元愛菜君） 答弁を求めます。

○住民福祉部長（長田忠典君） 津野茉莉依議員の再質問にお答えさせていただきます。

小中学校や小山町民への周知についてでありますけれども、学校ごとにコンクールを開くことは効果が大きいとは思いますが、まずは見本となるよう、小山高校でのコンクールを先駆けて実施できればと考えております。

町では年4回、春夏秋冬、四季に合わせて交通安全運動を実施しており、各種イベントのほか、交通安全対策の会議なども開催しております。このような機会にコンクールの結果を公表するとともに、広報紙などに掲載し、広く町民にPRしていきたいと考えております。

さらに、早期に商品化が進めば、「小山高校考案・オリジナルデザイン反射材」として、町内の小中学校や各御家庭への配付を通して、身につけていただくようPRしていきたいと考えております。

以上であります。

○議長（松元愛菜君） 再質問はありませんか。

○3番（込山千尋君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（松元愛菜君） 次に、6番 富宅水緒君。

○6番（富宅水緒君） 3人を代表して、小山町の人口を増やすための方策について質問します。

まず初めに、小山町の人口は、昭和35年の約2万6,000人から減少する一方で、令和4年10月1日では約1万7,000人となっています。この人口減少に伴い、若者の人口も減少傾向にあります。また、高齢者が人口の約4分の1を占めるなど、少子高齢化が進んでいます。小山町民は、地域にもよりますが、買物や娯楽は御殿場市に向かう人が多くいらっしゃいます。

そこで、小山町内に若者向けのお店やレジャー施設を増やす方策として、次の二つについて質問します。

1点目は、商店街を再利用することです。こちらは、福岡県の魚町銀天街で実際に行われた方法で、結果に期待ができます。その方法は、商店街の中で閉まったお店の場所に、パン屋、居酒屋、コンビニエンスストアなど、子育て世代や若者向けのお店を受け入れるという、至ってシンプルな方法です。このように子育て世代や若者向けのお店を取り入れることにより、商店街を活性化し、利用者を増やして住みやすくするのはどうでしょうか。

2点目は、小学生・中学生向けのレジャー施設を造ったり、既存の広場や現在開発中の富士モーターフォレストを使って、フェスなどのイベントやインスタ映えを狙った夜市を開催することです。さらに、これらのイベントを若者がSNSで宣伝することで、年齢が近い人や興味を持ってもらった人に見てもらいやすくなります。これにより、若者だけでなく家族連れなど町外の方が小山町に魅力を感じていただくことで、移住定住につながれば町の人口増加にもつながるものと考えます。

以上の2点を今後の小山町の人口や交流人口の増加のためにぜひ行っていただきたいと思えます。この点について町はどうお考えでしょうか。

○議長（松元愛菜君） 答弁を求めます。

○理事（増井重広君） 富宅水緒議員、内尾陽向議員、田代蒼彩議員にお答えいたします。

町の人口を増やすための方策についての御質問のうち、1点目の子育て世代や若者向けのお店を取り入れて商店街を活性化し、住みやすくすることについてであります。

国の人口動態調査結果によれば、国内の人口は、出生数を死亡数が大きく上回る人口減少の状態にあり、令和3年の日本人人口はマイナス62万人以上と、1年間で鳥取県人口を上回る人数が減少していることとなります。そして、この減少傾向は今後何十年も続くと予想されており、人口は減り続けるという現実を前提に適応していく戦略が必要になっています。

議員御指摘のとおり、本町の人口も同じように減少しており、特に14歳以下の年少人口及び15

歳以上64歳以下の生産年齢人口は30年以上減少し続け、また、増え続けていた65歳以上の高齢者人口は、各年10月1日の住民登録人数で、令和2年をピークに減少傾向に入りました。しかしながら、高齢者人口が減っても64歳以下の減少が更に大きいため、高齢化率は上昇していく予想であります。

問題となるのは、人口そのものが減少することではなく、高齢者を支える生産年齢人口が減り続けることであり、人口バランスの適正化に向けて若者の居住人口を増やすという観点は、本質を突いた御質問、御指摘であると考えております。

その上で、御質問で例示があった北九州市の小倉魚町での取組は、リノベーションまちづくりという、不動産価値の回復と同時に新しい産業をマチナカに創り出す手法で、民間主導の公民連携で取り組まれているものであります。新しい産業を創り出すことは、質の高い雇用を創り出すことにつながり、生産年齢人口を維持する上で大きな効果をもたらしますので、町内にも取り入れたいと考え、令和元年度には小倉魚町の取組をプロデュースしたリノベーションまちづくりの第一人者の講演会や、熱海市内で実践中の方のワークショップ等により、町内にまちづくりの種をまいていただきました。

その結果として、空き物件を活用したイベント開催やカフェ運営を始める方、また店舗内の空きスペースを活用したカフェスタンドを始める方などが出現しております。

このような動きが更に広がっていくことで、御質問の趣旨のような暮らしやすいまちにつながっていくと思いますので、新たなチャレンジをする方が拡大していくよう町は応援していきたいと考えております。

なお、挑戦する方を増やすためには、まずはにぎわいをつくること、または、にぎわう町を見せることから始めるのがよいとの専門家のアドバイスを受けており、どのような人がどの程度集まるかを確かめるマルシェやイベントは有効な社会実験であるとのことでした。

そこで、先日、10月22日から11月6日まで開催したアートウォークおやまでは、エリア内の商店街などと協働してマチナカを回遊するイベントを開催したところ、町内外から子ども連れの家族をはじめとする多数の来訪者があり、民間の方にも地域の可能性を感じていただけたのではないかと考えております。

今後も社会実験を仕掛けていきたいと考えておりますので、高校生の皆さんには、特に若者をターゲットとした社会実験の方策などがありましたら、ぜひ提案していただきたいと思っております。

次に、2点目の若者向けの施設設置やイベント開催を通じて移住定住を促進することについてですが、全国で様々な取組が行われている中、他地域との競争に勝つためには、ここでしか味わえないということ押し出す必要があります。

御質問にあった富士モータースポーツフォレストは、富士スピードウェイという町の強みを活かした新たな交流拠点であり、まさにここにしかないものを生み出すことができる場所であります。既に自動車のレースだけではなく、ママチャリグランプリやマラソン大会など様々なイベン

トが開催されてきましたが、御存じのとおり、東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車ロードレースのゴールとして使用されたほか、最近では、先月のラリーチャレンジ富士山おやまや、先日、11月5日にはフジ・モータースポーツフォレスト・ファイアワークス・バイ・富士山花火という、花火とクルマがコラボするエンターテイメント花火大会など、新たな取組が次々と生まれており、町民優待などで町民も楽しむことができるほか、町外にも本町の魅力を発信していただいております、今後さらなる展開が期待されます。

このほか、前述のアートウォークおやまの会期中の10月29日、30日に、役場近くの豊門公園において、アート制作体験やマルシェ、キッチンカー、小山高校吹奏楽部の皆さんにも盛り上げていただいたステージイベントなどで、思い思いに楽しんでいただく豊門フェスタという空間提供を行ったところ、2日間で延べ2,500人の来訪がありました。近隣市町からの家族連れも多く、町のよいところを感じていただけたものと思います。

今後も町の強みを見いだし、地域資源を最大限に活かす「あるもの探し」の仕掛けを民間と協働して取り組みたいと考えますが、その際には、御質問にあるような夜市の開催など、こういった仕掛けがターゲットとする若者に刺さるのか、単発で終わらない持続可能な仕組みを考慮した企画提案を若い皆さんからもいただければありがたいと思っております。

以上であります。

○議長（松元愛菜君） 再質問はありませんか。

○7番（内尾陽向君） 再質問します。

答弁の中で、まず、にぎわいをつくるのが重要だとのことでした。そのために情報の広げ方を変えていくのはどうでしょうか。

現在、小山町には公式LINEがありますが、若者にはInstagramやT i k T o kなどのSNS利用者が多くいると感じます。だからこそ、情報の広げ方を変えることで小山を変えていくために、小山町の公式のSNSを増やしていくのはどうでしょうか。町の考えを伺います。

○議長（松元愛菜君） 答弁を求めます。

○理事（増井重広君） 内尾陽向議員の再質問にお答えします。

町への移住定住促進につながるにぎわい創出のために、若者の利用が多いInstagramやT i k T o kなど町公式のSNSを増やしていくのはどうかという御質問ですが、子育て世代や若者に情報を届ける手段として、従来の広報ツールに加え、時代の変化やターゲットに合った効果的な手段を取り入れていくことは大変重要であると認識しており、検討する必要があると考えます。

ただ、行政だけで取り組むには更新頻度や発信内容などに限界がありますので、町を盛り上げたいと思う方にも情報発信していただくことが最も広報効果が高いと思われます。ぜひ小山高校の皆さんにも、利用しているSNSで自身が感じた町のよいところを発信していただきたいと思っております。

御質問の趣旨である子育て世代や若者の移住促進に向けて、マチナカににぎわいを創出し、店舗経営などの挑戦をする方が増えていけば、来訪者がまた訪れたいくなるまち、住みたいくなるまちにつながる可能性が広がりますので、来訪者や住民達がSNSなどで発信しなくなる活性化策を検討していきたいと考えます。

以上であります。

○議長（松元愛菜君） 再質問はありませんか。

○8番（田代蒼彩君） 再質問をします。

答弁の中で、小山町で行うイベントへの提案が欲しいとのことでした。

そこで、小山町の自然を活かした釣りなどのアウトドアイベントを開催し、若者や家族連れをターゲットにするのはどうでしょうか。町の考えを伺います。

○議長（松元愛菜君） 答弁を求めます。

○理事（増井重広君） 田代蒼彩議員の再質問にお答えいたします。

移住促進につなげるために若者等をターゲットとする釣りなどのアウトドアイベントを開催したらどうかという御質問であります。自然を活かしたアウトドアイベントは、様々な工夫の下に全国で企画・開催されております。そのような中で大切になってくるのが、「ここでしか体験できない」という視点であると考えます。

イベントを企画する際には、例えば、町で育った農産物やニジマスなどが新鮮なまま食べられる、また、町民との出会いを大切にしたい内容にするなどの工夫が考えられます。イベント参加者は、体験を通じて町内に移住した後の楽しみ方をイメージすることができると考えますので、企画次第で効果の高いイベントにできる御提案であると思います。

皆さんには、先ほどの御質問にもありました集客に向けた情報発信も含め、効果的なイベントとなる企画・運営について、小山高校生と一緒に行政が取り組む提案がございましたら、ぜひ協働していきたいと思っております。

以上であります。

○議長（松元愛菜君） 再質問はありませんか。

○6番（富宅水緒君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（松元愛菜君） これで一般質問を終わります。

ここで、議長の私から皆さんへ御挨拶を申し上げます。

今日は、このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。これからの小山町をよりよくしていくために、地域の皆様との交流はとても大切なものと改めて知ることができました。この高校生議会を通して、若者、高齢者、全ての世代が住みやすいまちになることを願っています。本日は本当にありがとうございました。

（一同拍手）

○議長（松元愛菜君） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

これもちまして、令和4年小山町高校生議会を閉会します。

午後1時54分 閉会

○総務課長（渡邊 徹君） どうも皆様、お疲れさまでした。

引き続き、ただいまの高校生議会につきまして、4人の方から講評をいただきたいと思います。

初めに、小山町長 池谷晴一が申し上げます。

○町長（池谷晴一君） 御紹介いただきました小山町長の池谷晴一でございます。

小山高校生の皆様、そしてまた町議会議員の皆様、本日は高校生議会への御参加、大変ありがとうございました。

さて、この高校生議会でございますけれども、平成28年に始まり、本年で7回目の開催ということでございます。

この議会の趣旨でございますけれども、高校生の皆様に、小山町について普段感じている疑問点、あるいは、こうなればいいなということを一一般質問という形で町の方にぶつけていただいて、政治、町政に関心を持っていただくということ、そしてまた、我々町の側も、皆様から町政に関わります様々な点につきまして御指摘や御提言をいただき、町政執行の参考にしていきたいということでございます。

過去には、高校生の質問により、足柄ふれあい公園のバーベキューガーデン、あるいは金太郎スタンプ、そしてまた大学生の遠距離通学費助成制度なども実現したところでございますが、本日の会議も大きくは3項目でございましたが、新たな交通機関としてロープウェイの設置、そしてまたレンタサイクルの乗り捨て場の設置、そしてまたデマンドバスの運行時間の延長、大きく2点目では、交通事故防止に関わりますデザイン化された反射材の活用、大きく3点目では、小山町の人口、あるいは交流人口の増加に資する商店街のリノベーション、そしてまた若者やファミリー向けのイベント誘致などの開催、その他公式のインスタグラム、あるいはT i k T o kなどのSNSの増というような具体的な御提案をいただきました。どれも高校生の視点での斬新な御提案であるというふうに思います。今後の町政執行の参考にさせていただきたいというふうに思います。

そして、議長を務めていただきました松元様には、スムーズに会議を進行していただきまして、大変ありがとうございました。すばらしい議長役だったなというふうに思います。ありがとうございました。

皆様には、選挙権年齢が18歳に引き下げられたわけでございますが、政治に参画するということはどういうことなのか、この議会を通じて具体的にお分かりいただけたのではないかというふうに思います。本議会の開催は、皆様にとりましても大変有意義ではなかったのかなというふうに感じている次第でございます。

なお、従前より小山高校には、吹奏楽部あるいはダンス部等に町のイベントへ御出演いただいております。また、町の行事に生徒の皆さんにはボランティアとして協力していただいておりますし、また1年生のキャリア教育につきましては、町役場で実施をしております。こんな連携を進めてまいったところでございますが、昨年10月に町と小山高校の連携協定が締結をされました。これからさらなる連携を推進してまいりたいというふうに考えておりますので、よろしく願いをいたします。

また、今月1日に、足柄駅前に金太郎像が完成をいたしました。熊さんが隣にいるわけですが、その除幕式が行われました。この像につきましては、小山高校の美術部の皆様にデザインをしていただいたとのことでございます。

小山町、そして足柄地区、また小山高校の発展、そして何よりも、これは皆さん、小山高校生のすばらしい未来をこの像が見守ってくれるんじゃないかなというふうに考えているところがございます。美術部の皆様に心から感謝を申し上げる次第でございます。ありがとうございました。

結びになりますが、本日御参加いただきました皆様、そして、この議会実現のために企画・運営等々、御協力、御尽力いただきました小山高校をはじめ関係の皆様、そしてまた御参加いただきました町議会議員の皆様に対しまして、厚く御礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

大変御苦労さまでございました。また、ありがとうございました。

○総務課長（渡邊 徹君） 次に、小山町議会議長 遠藤 豪様、お願いいたします。

○議長（遠藤 豪君） 高校生議員の皆様、それから議長を務められました松元さん、大変お疲れさまでございました。

皆さんの大変堂々とした質問ぶりや議長の議事進行に大変感服したところがございます。

せっかくの機会ですので、ちょっと気がついたことをお話しさせていただきたいと思います。

まず、全体を通しまして、ここで聞かせていただきましたけど、声の大きさ、また、はきはきとした質問の仕方、大変結構だったと思います。

あと数点ちょっとお話をさせていただきますと、再質問によります質問なんですけれども、具体的なケースを取り上げて回答を求めるというやり方は非常にいいことだなと、実際そうなんですけれども、こんなふうに感じております。

それから、いわゆる提案型の質問、私はこうの方がいいんじゃないかというような提案型の質問ですね。これについても、回答を得る点については利点がありますが、今日はそういうあれはなかったんですけど、何点もの提案をしますと論点がずれてしまうという点もありますので、この点はまた気をつけていただきたいなど。今日はそういう方はおりませんでしたので、大変よかったですと思います。

最後に、質問したことについて事前に調査研究をしている、こういう町ではこういうことをやっておったとか、具体的に数値を挙げて、例えば交通事故については、こういうあれが何件あったとか、こういう事前調査をするということも非常に重要ですので、今日の皆さんの質問を伺っ

ておりますと、その点も十分にできておったのかなというふうに感服したところでございます。私の感じたところでは、総体的に非常に素晴らしいなというふうに感じております。

さて、本日参加された高校生議員の皆さんには、今日の高校生議会での経験を家族や友人などにぜひお伝えをしてほしいなというふうに感じておるところでございます。

先ほど来、町長からもお話がございましたけれども、選挙権の年齢が18歳へと引き下げられております。皆さんの中にも間もなく選挙を経験される方もおられるのではないかと思いますけれども、この高校生議会は、若者の政治離れということがかねてから指摘されている中で、政治への関心、あるいは理解というものを深めてもらうことが目的の一つでございます。

政治というのは、特に地方議会においては本来は身近なものであるんですけども、なかなか目が向かないということもあろうかと思えます。皆さんの一番身近なところで動いているものが、この地方議会になると思いますので、ぜひ関心を持っていただきまして、今後も積極的に社会参加を心がけていただけたらなと思っております。

そして、高校生ですので、何よりも健康に心がけ、勉学やスポーツ、そして自分の将来の夢に向かって、より一層高校生活に励んでいただきたいと思えます。

終わりに、本日出席の当局の皆様や先生方、また当議会の開催に御尽力いただきましたことを心から感謝申し上げます、私の講評とさせていただきます。大変御苦労さまでした。

○総務課長（渡邊 徹君） 次に、小山町教育長 高橋正彦が申し上げます。

○教育長（高橋正彦君） 小山高校生の皆さん、議場にいられて意見を発表したり、町からの答弁を聞いたりしていかがだったでしょうか。

皆さんは、既に民主主義ということを学んでおられると思えます。この民主主義という考え方が最も端的に現れる場所というのが、この議場という場所ではないかと私は思っています。今、世界では様々な出来事が起きています。その中で民主主義の存在意味について問われる場面もあります。今回の高校生議会が、若い皆さんにとって、民主主義についても一度考える機会になると素晴らしいなというふうに思っております。

さて、本日は皆さんからの提案ありがとうございました。感心したことはたくさんありますが、特に二つの点について話させてください。

一つ目は、皆さんのアイデア力です。

日本の経済の力に陰りが見えています。今、一番必要とされているのはイノベーションだとも言われています。今までにない考え方に捉われない新しいアイデアです。

今回、皆さんからロープウェイの設置という提案がありました。私には思いもつかない考え方、アイデアでした。一方で、アイデアは素晴らしいが、実現するのはなかなか大変そうだなとも思いました。

しかし、御覧になった方もおられると思えますが、11月10日の新聞記事に、自動運転でカーブや分岐ができ、建設のコスト等も既存の5分の1等できるといふロープウェイを今開発してい

るベンチャー企業の話が載っていました。この企業は、主に海外の交通渋滞緩和を目指しているということで、今回の小山町とは直接つながるのは難しいかもしれません。しかし、皆さんが考えられたロープウェイのアイデアが、実際にもう開発に取り組んでいる人がいるということに私は驚きました。

ユニークなアイデアは、現状の課題を解決するのに大きな力になると改めて思いました。一つのアイデアが更に別のアイデアを生み出すという力もあります。発想が広がっていくきっかけにもなります。フェスや夜市の開催などのアイデアも若い方のニーズを踏まえたものだなと感心をしました。

二つ目は、生活者の目線を大切にしているということです。

日々の生活の問題を丁寧に取り上げられていることがすばらしいと思いました。交通安全のために反射材を作ってはどうか。さらに、実際使ってもらうにはどうしたらいいか。具体的な提案だったと思います。また、商店街の活性化についても、生活者の目線での取組だったと思います。

これからの社会をつくっていく皆さんが、町や社会のことを自分ごととして捉え、あるときはユニークなアイデアを出し、あるときは具体的な提案をする、そんな当事者意識を持って考えていくことが、この町や国をよくすることにつながると思います。今日の皆さんの姿に大きな期待を持つことができました。すばらしい発表だったと思います。ありがとうございます。

以上で私の講評とさせていただきます。

○総務課長（渡邊 徹君） 最後に、県立小山高等学校校長 鈴木広隆様、お願いいたします。

○小山高等学校校長（鈴木広隆君） 議長の松元さん、そして高校生議員の皆さん、お疲れさまでした。大変すばらしい会となったことをとてもうれしく思います。

そして、このような貴重な体験の場を設けてくださった小山町役場、そして町議会の皆様方に感謝申し上げます。ありがとうございました。皆様の温かい御支援のおかげで、本日、生徒達は立派に役目を果たすことができたと思っています。

本校は、昭和60年の開校以来、常に地域とともに歩んでまいりました。先ほど町長からも御紹介がありましたが、昨年、小山町と小山高校の連携協定が締結されました。この協定の目的には、活力ある地域社会の発展と魅力向上及び将来を担う人材育成に寄与するとあります。この協定の目的に沿うように、本校の生徒は地域の多くの行事に様々な形で参加、協力させていただいております。また、一方では、本校の1年生全員が小山町役場内でインターンシップを経験させていただいたり、町から厚い御支援をいただいております。生徒達は、そうした活動を通して地域や地域の人々との関わりを持ち、視野を広げ、自らを成長させています。将来はいろいろな形で地域に貢献できる人材となれるよう、学校としても大いに期待をしています。

今年で7回目となる高校生議会は、まさに小山高校を代表する看板の行事です。本校では、2年生全員が小山町の課題とその解決策について、4月から授業の中で取り組みます。そして、10月に校内で成果発表会を行い、この高校生議会に提出される提案が選ばれます。つまり、この高

校生議会が、2年生全員の探究活動のゴールとなっているのです。また、生徒会役員が、このように高校生議員として議会の運営を体験することは、政治、行政を身近なものと感じ、興味、関心を持つという意味でとても貴重です。ぜひこれからもこのような場を提供してほしいと願っています。そして、この高校生議会が小山町の発展と魅力向上、小山高生の人材育成に大きく寄与することを期待します。小山町の皆様には、今後とも変わらぬ本校への御支援をよろしく願います。

最後に、この機会を与えていただいた皆様にお礼を申し上げ、講評とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

○総務課長（渡邊 徹君） どうもありがとうございました。

以上で、高校生議会を終了とさせていただきます。

午後2時12分 終了